

安全運転

ほっと NEWS

2022年6月号

今月のクイズ

2015年に起きた交通事故は536,899件でした。では、5年後の2020年の交通事故件数を、次の中から選んでください。

- ①409,178件(約24%減)
- ②359,178件(約33%減)
- ③309,178件(約42%減)

(答えは裏面)



TOKIO MARINE
NICHIDO

持続可能なCO2削減と安全運転とは ～エコドライブの実践はSDGsの目標に近づく?～

最近よく耳にする「持続可能な開発目標（通称：SDGs）」とは、2015年9月の国連サミットで採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です※1。17の目標と169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。その目標11のターゲットには「大気質に注意をはらい環境に与える悪影響を減らす」ことが記されており、目標3のターゲットでは「2020年までに、世界の交通事故による死傷者を半減させる」とあります。SDGsの実践は、ドライバーの日々の運転に深くかかわっています。

今月は、環境改善のためのCO2削減がどれだけ進んでいるかを通し、環境改善と事故削減を身近なところから実行するにはどうすればよいのかをみてみましょう。

※1出典：外務省「JAPAN SDGs Action Platform」より抜粋

CO2削減は環境にもお財布にも優しい

2019年度の日本全体のCO2排出量に占める自動車の排出量は1億7,735万tで、全体の約16%にあたります（図1）。自動車の燃費改善や輸送量の減少等により、CO2排出量は2018年度より397万t削減されました。1人が1年間に排出するCO2の量は約1.9t※2なので、約209万人が普通に電気や車を使い生活できる量のCO2が削減されたことになります。

一方、一般家庭（世帯当たり）における2019年度のCO2排出量は約3.97tで、そのうち自家用乗用車は約1.05tと約26%を占めています（図2）。SDGsの取り組みが始まった2016年と比べCO2排出量はほぼ変わっていません（図3）。一般家庭において車のCO2排出量削減に対する行動が消極的であることがわかります。CO2排出量を削減する運転は、環境改善と同時に燃費の改善につながるため、ガソリン代がそれだけ削減され環境にもお財布にも優しい行動になります。

※2：国立研究開発法人 国立環境研究所 2020年7月「日本の温室効果ガス排出量データ／人当たりの二酸化炭素排出量（2019年度）」より

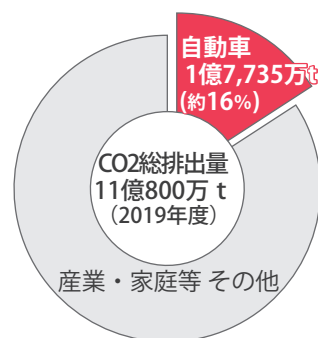


図1：日本のCO2排出量に占める自動車のCO2排出量（2019年度）

図1の出典：国土交通省 令和3年4月「運輸部門における二酸化炭素排出量」より弊社作成

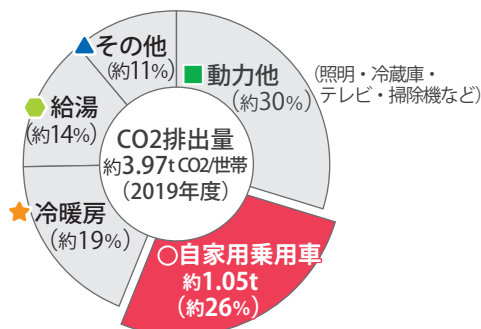


図2：家庭からのCO2排出量の内訳（2019年度）

図2,3の出典：国立研究開発法人 国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2019年度確報値）」より弊社作成

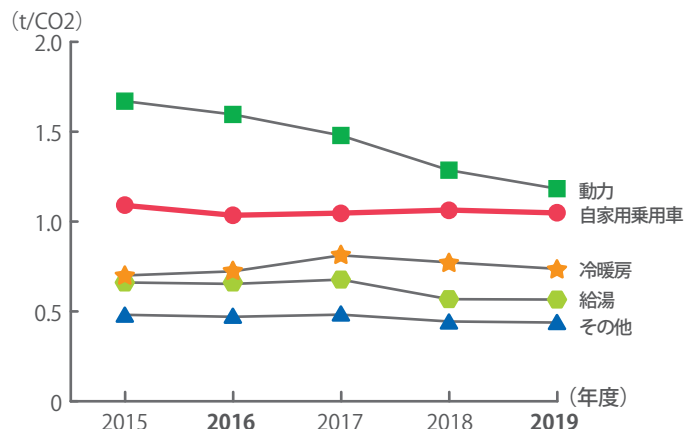


図3：家庭からのCO2排出量の推移（2015～2019年度）



持続可能なCO2削減と安全運転とは？



「SDGsを実践しよう」と構えると難しそうですが、「ガソリン代を抑え、事故を防ぐためにエコドライブを習慣にしよう」とすれば、おのずとCO2が削減されSDGsの目標に近づきます。では、すぐにできるエコドライブをみてみましょう。

タイヤの空気圧をこまめにチェックしましょう

タイヤの空気圧は、車を使用していなくても自然に低下します。タイヤの空気圧が適正値より低下すると、市街地で約2%、郊外で約4%の燃費が悪化します（※）。さらに、タイヤの側面がたわんで車全体の安定性が悪くなり、パンクやバースト（破裂）につながる危険性があります。出庫前に目視で日常点検を行い、月に1回以上はエアゲージを使って空気圧の点検を行いましょう。



空気圧をこまめにチェックする

※適正値より50kPa(0.5kg/cm²)不足した場合

「ふんわりアクセル」でゆっくり発進しましょう

発進時にゆっくり発進する「ふんわりアクセル」を実践すると、約10%の燃費を改善することができます。交差点等での発進時に急に加速をすると、周囲の危険に対応できなかつたり、前の車に追突したりする危険性があります。緩やかにアクセルペダルを踏みはじめ、発進から5秒後に20km/h程度になるのが「ふんわりアクセル」の目安です。

発進時は、周囲の危険を把握するために一拍おいてから、車の速度をゆっくりと上げる「ふんわりアクセル」を実践しましょう。

十分に車間距離をあけて、加速・減速が少ない運転をしましょう

車間距離が短いと、前車の動きに左右されやすくなるため、ムダな加速や減速が多くなり、市街地では約2%、郊外では約6%の燃費が悪化します。また、後続車のドライバーに「速くなったり遅くなったりして危ないなあ」と不安を与えかねず、場合によっては周囲から「あおり運転」と認識される危険性もあります。

走行時は十分に車間距離をあけて、加速・減速などの速度変化が少ない運転をしましょう。

「ふんわりアクセル」でゆっくり発進する

十分な車間距離をあける

早めにアクセルペダルから足を離し、ゆっくり停止する



減速時は、早めにアクセルペダルから足を離し、ゆっくり減速して停止しましょう

車を停止させるとき、アクセルペダルから早めに足を離しエンジンブレーキを作動させることにより、約2%の燃費が改善します。また、焦らずに足をブレーキペダルへ移せるので、踏み間違えが起きにくくなり、停止位置で安全に止まることができます。

減速時は早めにアクセルペダルから足を離し、ゆっくり減速して停止しましょう。

出典：環境省 COOL CHOICE「エコドライブ10のすすめ」を参考に弊社作成

- **タイヤの空気圧をこまめにチェックしましょう**
- **「ふんわりアクセル」でゆっくり発進しましょう**
- **十分に車間距離をあけて、加速・減速が少ない運転をしましょう**
- **減速時は、早めにアクセルペダルから足を離し、ゆっくり減速して停止しましょう**

今月のクイズの答え

③309,178件(約42%減) 出典:警察庁統計データ 令和4年3月「令和3年中の交通事故の発生状況」より

ご用命・ご相談は・・・



東京海上日動

URL www.tokiomarine-nichido.co.jp

担当営業課